



南阿蘇村立南阿蘇中学校 学校だより

チェンジ!

校訓
南 阿 蘇
Mission Action Sense
使命 行動 感性
R2. 3. 14(土) 文責 坂梨

ご卒業おめでとうございます!!



本来ならば、巣立ちゆく97名の3年生の門出を祝うために、吉良村長をはじめ、たくさんのご来賓の方々、そして保護者の皆様に多数ご臨席をいただくところではあります。新型コロナウイルス感染拡大防止のため在校生及び来賓不在での卒業証書授与式となりました。卒業生の皆さんも、3月2日から急遽、臨時休校となり、練習もできないままぶっつけ本番での卒業式となり、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

しかし、そんな状況の中にあっても、この一年間、最上級生としてリードしてくれた3年生の姿は、凛としてとても立派でした。一人一人に卒業証書を手渡しましたが、これまでのあゆみと重なり、胸があたりになりました。受け取る時の表情は実に生き生きとしており、自信に満ちあふれ、中学校生活をやりきった! そんな思いの強さを感じました。在校生を代表して述べた2年生の大山君の送辞、それを受ける形の答辞を菅原君が読んでくれました。その言葉を聞きながら、あらためて南阿蘇中の素晴らしさと絆の強さを感じました。このような状況下での卒業式ではありましたが、先生方や在校生もいろいろな工夫をして、卒業生を祝ってくれました。そんな様子を見ながら、またひとつ、南阿蘇中の素晴らしい歴史の一ページが刻まれたと嬉しく感じました。新しい一歩を踏み出す97名のさらなる活躍を、心から祈っています。



画像編集



飾り用の花づくり



卒業メッセージづくり



3年生の教室掲示 ~おめでとうの気持ちをこめて~



式 辞

冬の寒さも少しずつ和らぎ、春の訪れを感じられる今日の良き日に、南阿蘇村教育長 松野孝雄様、教育委員 藤本誠司様ご臨席の下、令和元年度 南阿蘇中学校第四回卒業証書授与式を本日挙げてまいりましたことを心から感謝申し上げます。本来であれば、南阿蘇村村長 吉良清一様を始め、日頃からお世話になっているご来賓の皆様方にもご臨席を賜り、皆さん方に卒業証書を渡すべきところではありますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためこのような形で実施しなければならないことを大変残念に思うと同時に卒業生、保護者の皆様に対して申し訳ない気持ちでいっぱいです。卒業生の皆さん方も恐らく心中複雑ではないかと察します。そんな、皆さん方の気持ちを思い、在校生や先生方が限られた条件の中で、少しでも皆さん方の門出を祝うにふさわしい式になるようにと知恵を絞ってくれました。そのことに感謝するとともに、私たち職員一同、万感の思いを込めて、皆さんの旅立ちに立ち会いたいと思います。

さて、卒業生のみなさん、御卒業おめでとうございます。また、この日を心待ちにされていた保護者の皆様、誠におめでとうございます。私は、皆さんとの出会いの中で、たくさんの素晴らしい感動をいただきました。皆さんは、小学校六年生の時に熊本地震を経験し、中学校に入学してからも普通の生活の有り難さ、支え合うことの大切さを学んできました。そして、自分たちの頑張る姿を見ていただき、甚大な被害を受けた南阿蘇の復興・復旧に少しでも役に立ちたい、南阿蘇村に元気を届けたいという思いで全力で取り組んできました。その結果、雨天のため二日間の開催となった体育大会や今年初めて子ども議会に取り組んだ学習成果発表会、部活動や中体連大会等で常に最高の結果を求め、見事にやり遂げられました。また、生徒会活動では「ALL」をテーマに掲げ、自分の持てる力をいつでも発揮できるようにと、日々の生活の中で、当たり前のことを当たり前に行うことができることを大切にするとともに、南阿蘇中生としての誇りを大切にしながら、様々なことに挑戦した一年でもありました。特に、現代社会に於いて大きな社会問題にもなっている情報モラルについて、生徒会がその重要性を喫緊の課題であると捉え、全校生徒で作上げた「南阿蘇中 守ルール」が文部科学大臣賞を受賞するなどそのひたむきな姿は、地域の皆様に信頼と高い評価をいただくことができました。改めて、皆さん一人一人を誇らしく思います。そんな皆さんに、話をするのも最後になりますが、私から卒業に当たって二つのことをお願いしたいと思います。

まず、一つは「**夢の実現に向け、しっかりとした目標を持ち挑戦してほしい**」ということです。

昨年のラグビーワールドカップでは、日本チームが素晴らしい活躍を見せて世界から注目されるようになりました。8年前までの日本チームは、世界ランキング16位と世界では全く振るわないチームでした。そのチームをここまで強くしたのが二人の外国人ヘッドコーチでした。彼らが日本のチームを最初に見て感じたことは、「日本はどこかの国を真似している。日本人の良さが全く出ていない」ということでした。そこで彼らは「JAPAN WAY」「One Team」というスローガンを掲げ、選手の強化に取り組みました。この言葉には「他国のチームの真似ではなく、日本独自スタイルでチームが一丸となって世界に挑戦する」という熱意が込められています。それからの7年間、日本代表の練習は、一日三回から四回に分けられ、第一部は、朝五時にスタート。朝早くからのトレーニングで筋力強化、第二部ではストレンクス&コンディショニングトレーニング、第三部ではICTやドローンなどを利用した戦術面での強化、また、第四部は抜き打ちにトレーニングを行うなどとてもハードなものでした。代表選手も今までの練習を振り返って「地獄のようなかなりしんどい練習であった。しかし、誰一人弱音を吐くことなく頑張ってきたことで彼らのいう日本人独自のスタイルが完成した」といっています。何かをやり遂げるためには「しっかりとした目標を持ち、苦しいことや辛いことがあってもそこから逃げずに自分に言い訳をせず、まずは目の前の一つ一つから取り組んでいくことが大切である」ということを教えられました。これから皆さん方が自分の夢や目標に向かって挑戦したとき、失敗したり困難にぶつかったりすることがあるかもしれませんが、しかし、どんな局面にあっても失敗を恐れず、令和という新たな時代を切り拓くためにも、強い意志を持って挑戦し、努力し続けてほしいと思います。

二つめは「**感謝の心**」を大切にしてほしいということです。

皆さんは、熊本地震を経験し、本校の特色ある取組の一つでもある「防災教育」を通して、その復興と共に私たちの故郷南阿蘇村に思いをはせる沢山の方々に出会いました。今の私たちの生活が多くの人々のつながりと支えによることを思い、感謝の気持ちを忘れなければ、人は皆さん一人一人を必ず支えてくれると思います。私たちは、他者との関わりの中で成長します。お互いに心の悩みに気づき、支え合い、励まし合える仲間であってほしいと思います。

多様化が進み、活躍の場が世界に広がっている今の社会では、皆さん一人一人が興味のあることや得意なことを生かして役に立つことが必ずあります。それが何であるか、まだ分からない人もいるでしょうが、焦らずに、多くの経験を積み重ねながら成長を続けてください。皆さんの前に無限に広がる未来の可能性を信じて、それぞれが選んだ道を一步一步、歩んでほしいと願っています。皆さんの卒業と共に、私もこの大好きな南阿蘇中学校を最後に退職します。これからは卒業生の皆さんと一緒に南阿蘇中学校の発展を見守っていきたいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様には、お預かりしましたこの三年間、私たち職員一同微力ながらもお子様のよりよい成長のため、精一杯努めて参りましたが、何かと不十分な点もあったかと思えます。どうかご容赦いただきますようお願い致します。お子様たちが生きるこれからの時代は、変化の激しい、混沌とした時代になることは間違いありません。しかし、どんな困難な時であってもお子様 たちは本校で学んだ事を基礎にして、これからの人生を力強く生き抜いてくれるものと、信じております。この三年間、PTA活動や地域活動を通して 本校の教育にお寄せくださいましたご協力とご支援に心から感謝申し上げます。

さて、卒業生諸君。大空へ羽ばたこうとする鳥は、大きく翼を広げて、「空高く舞い上がろうとする力」を最大限に得ようとします。君たちにとって、その『翼』に当たるものは、一人ひとりが持っている自分の『夢』であり、『希望』に他なりません。『夢を語る人であれ』『希望を持ち続ける人であれ』君たち97名は、私の、南阿蘇中学校の、『誇り』です。君たちの前途に開ける『未来』に、期待と思いを馳せながら、私の式辞とします。

令和2年3月14日

南阿蘇村立南阿蘇中学校長 坂梨正文